

今日のトピック トルコの金融政策(2015年1月)

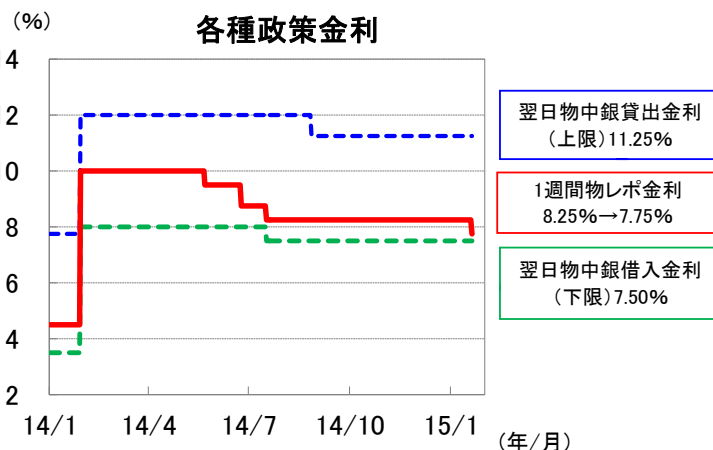
政策金利(1週間物レポ金利)を引き下げ

ポイント1 政策金利水準の正常化を再開

8月以来5会合ぶりに利下げ

■トルコ中央銀行(以下、中銀)は20日、主要な政策金利である1週間物レポ金利を0.50%引き下げ7.75%にすることを発表しました。その他の政策金利(金利誘導レンジの上限11.25%、下限7.50%)は、いずれも据え置きとしました。

■中銀は、2014年1月にトルコリラの安定化を狙い、臨時の措置として各種政策金利を大幅に引き上げました。同年5月から利下げによる金利水準の正常化を始めたものの、物価高への警戒から同年8月の上限金利引き下げ以来、利下げを見送りしていました。

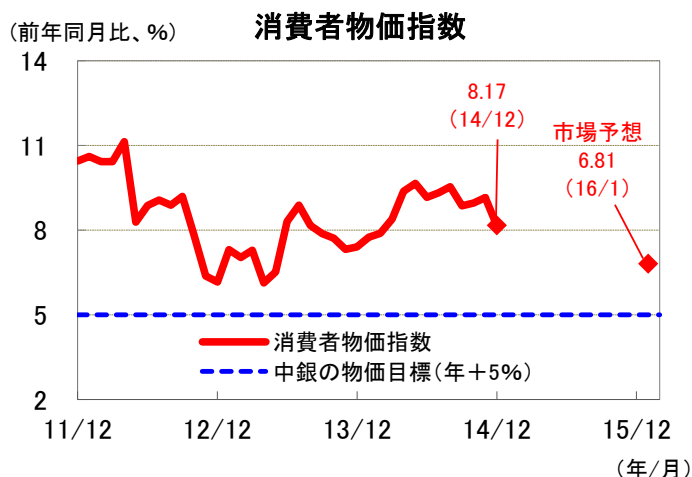


ポイント2 物価上昇率低下などに対応

中銀は目標近くへの低下を予想

■12月の消費者物価指数は前年同月比+8.17%と、中銀の物価目標(年+5%)を大きく上回っています。ただし、原油安などから低下傾向にあり、中銀の調査による市場の1年後の予想も低下しています。

■中銀は物価上昇率について、昨年来の金融引き締めや、原油など商品価格の下落から低下傾向にあり、今年半ばに目標近くになるとの予想を示しました。足元の物価上昇率や予想の低下などを考慮し、中銀は利下げ再開を決定したと思われる。



(注) 各種政策金利は2014年1月1日～2015年1月20日。
消費者物価指数は2011年12月～2014年12月。
市場予想は、トルコ中央銀行が2015年1月16日に発表した調査結果。
(出所) Bloomberg L.P.、トルコ中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 利下げ継続には、トルコリラの安定が重要

■中銀は、物価見通しが顕著に改善するまで、現行の金融引き締めスタンスを続ける考えです。声明文では、前回と同様に、市場の物価見通し、足元の物価動向、その他物価に影響を与える要因を注視する方針が示されました。

■原油価格の大幅な下落により、物価を押し下げる影響が期待されます。ただし、投資家のリスク回避姿勢がトルコリラ安要因になっており、物価への好影響が薄らぐ可能性があります。利下げの継続には、リラの安定が重要になりそうです。

ここも チェック!

2015年01月19日 先週のマーケットの振り返り(2015/1/12-1/16)
2014年11月17日 トルコの中期経済計画(トルコ)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。